

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



**あけまして  
おめでとうございませす**

昨年、附属幼稚園への温かいご支援ご協力、誠にありがとうございました。

本園はこれからも、在園児へのより良い保育・教育を追求することによって、地域大分県の幼児教育界に貢献するという附属幼稚園の使命を果たすべく、職員一同、誠心誠意努力して参ります。どうぞ、本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、一ヶ月ぶりに登園してきた子どもたちは、門の前で待ち受ける私に、「あけましておめでとうございませす。今年も宜しくお願ひします！」と、見事な新年の挨拶をしてくれました。いつもと違う挨拶が口のできるのを楽しみに、張り切ってたってきたのだなと思えました。登園時刻も心なしかいつもより早かったようです。お家でのマイペースな生活から気持ちを切り替えるのは難しいことだと思ふのですが、子どもたちは、久しぶりに友だちに会えたことが本当に嬉しいようでした。きつと「お友だちっていいな！」という気持ちが、実感として持てた一日だったと思います。こんなチャンスには、「やっぱりお友だちがいるっていいよね！楽しいよね！」そんな後押し「ひと言」を掛けてあげたいものです。

私たち職員にとっても、子どもたちとの楽しい日々が始まりました。附属幼稚園は、これから、何よりこの子どもたち一人一人の笑顔大切にします。



## 折り合いをつけるということ

小学校ではあまり使わない言葉に「折り合いをつける」という言葉があります。幼稚園ではとてもよく耳にするのですが、これまで私は、具体的な子どもの姿として、この場面を捉えることができませんでした。新年早々の年少さんの部屋。三ちゃん（仮名）は、青い膝掛けを掛けてカルタに加わりたと思っていました。ところが栄ちゃん（仮名）も「青がいい」と言いました。一学期の頃であれば喧嘩になかったかもしれないところが三ちゃんは、顔全体で不機嫌さを表しながらも、どうにかして栄ちゃんを諦めさせる方法を捜していました。「明日青を使えばいいじゃん」「黄色もかっこいいよ」・・・肩を落としてカルタを始めた栄ちゃんに言います。しかし栄ちゃんは顔きません。側にいた先生は、カルタ遊びを進めながら、優しく声を掛けます。「どうしたらいいかな？」決して一度に二つの言葉を掛けません。「栄ちゃんの顔を見てごらん」表情のゆらぎを伺い「女の子たちは二人で掛けてるよ。暖かいって！」などと声を掛け、三ちゃんが折り合いをつけるのを根気強く待ちます。この時、三ちゃんの心の中には何が起こっていたのでしょうか？三ちゃんは立ったまま、小さい声で「黄色はいやだ！」とつぶやきました。しかし、直に意を決したように栄ちゃんの隣に座り、自分と栄ちゃんの両方に青い膝掛けを掛け、その上から、黄色いのを重ねて掛けたのです。そして、栄ちゃんと顔を合わせてにっこりと笑顔を交わしました。三ちゃんは、自分も栄ちゃんも嫌な気持ちにならない方法をようやく見つけました。「青いのを独り占めしたい」という気持ちに、自分の力で折り合いをつけたのです。青を譲って、自分が黄色を使えばいいこともわかっていたのでしょうか。でも、どうしてもできなかった。それが、黄色い膝掛けを重ねるといふ行為になったのではないかと思います。子どもの心の葛藤が手に取るように見えた瞬間でした。三ちゃんの「折り合い」力に感動し、心の成長をうれしく思った出来事でした。



●一月ならではの遊びが登場！  
子どもたちの発達に合わせてカルタ遊びも進化します！